

不妊患者における膣分泌物グラム染色の有用性

中村 春樹 1), 松岡 麻理 1), 太田 志代 1), 北山 利江 1), 勝 佳奈子 1), 山内 博子 1),  
門上 大祐 1), 中岡 義晴 1), 森本 義晴 2)

1)医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

2)医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】着床に影響を与える子宮内細菌叢は、膣内細菌叢と密接に関連することが報告されている。膣分泌物グラム染色は流産のリスク因子と考えられている細菌性膣症 (bacterial vaginosis : BV) の簡便な検査法である。今回、不妊患者の BV に関するリスク因子、および膣分泌物グラム染色と子宮内フローラ検査における乳酸桿菌率の相関について検討した。

【方法】2019 年 4 月から 2020 年 4 月までに当院で膣分泌物グラム染色を実施した不妊患者 446 例を対象とし、患者背景、妊娠歴について BV に関するリスク因子を比較検討した。BV の診断は膣分泌物のグラム染色を用いた Nugent score で行い、7~10 点を BV 群、6 点以下を非 BV 群とした。患者背景は喫煙歴、子宮卵管造影検査における異常所見 (卵管狭窄、卵管閉塞、卵管水腫)、頸部細胞診異常、クラミジア感染、子宮内膜および頸管ポリープ、低用量ピルの使用歴、子宮内膜症の有無、妊娠歴について  $\chi^2$  検定を用い比較検討した。また、446 例のうち子宮内フローラ検査を施行している 61 例において、膣分泌物グラム染色と子宮内フローラ検査における乳酸桿菌率の相関について Mann-Whitney U 検定を用い比較検討した。

【成績】BV 群は 62 例 (13.9%) であった。患者背景において、頸部細胞診異常 (BV 群 20.9%, 非 BV 群 7.5%,  $P=0.01$ )、クラミジア感染 (BV 群 14.5%, 非 BV 群 1.0%,  $p=0.001$ ) が BV 群で有意に多かった。妊娠歴において、人工妊娠中絶 (BV 群 24.2%, 非 BV 群 5.2%,  $p=0.001$ ) が BV 群で有意に多かった。また、BV 群において子宮内フローラ検査における乳酸桿菌率 ( $p=0.04$ ) が有意に低かった。

【結論】不妊患者の BV に関するリスク因子として頸部細胞診異常、クラミジア感染、人工妊娠中絶歴が抽出された。膣分泌物グラム染色は子宮内フローラ検査における乳酸桿菌率と相関していることから、不妊初診時のスクリーニング検査として有用である。